備　前　市　施　策　評　価　シ　ー　ト

（平成21年度事業）

施策名（小項目）	精神保健	コード	02-02-03

作成者	役職	保健課長
	氏名	有吉隆之
	電話	64-1819
このシート作成に要した時間		2.0　時間

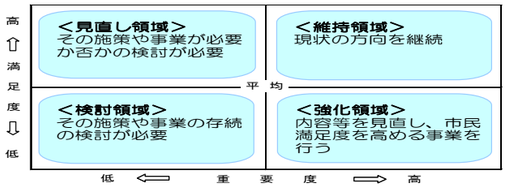
備前市総合計画の内容から記載する

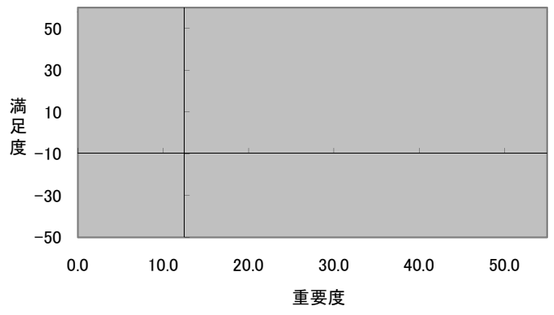
政策の体系		
	基本目標（大項目）	健康でやさしさあふれるまちづくり
	基本施策（中項目）	健やかで生き生きしたまちづくり

① 対象と目的 （誰のために、何のために）	精神障害者が適正な治療を継続し、地域で暮らせるとともに社会との交流を促進する。
② 現況と課題 （総合計画から現在の問題点を抽出）	社会環境や人間関係の変化・複雑化により心の健康が損なわれ易い状況にある。こうした状況の中で、精神障害者の人権に配慮し、自立に向けての支援や社会との交流促進を図るため、施策を推進していく。
③ 施策展開 （総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出）	・ 知識の普及啓発 ・ 相談窓口の充実 ・ 社会復帰の促進 ・ ・ ・ ・

④市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H19	H20	H21	H22
重要度(%)				
満足度(%)				





調査結果に対するコメント、市民の反応等 〔 調査対象でない施策は、市民の反応等 〕	障害者自立支援法の施行に伴い、地域生活支援事業が市町村実施となっている。地域の障害者等の福祉に関する各般の問題に対し、精神障害者の保護者会も施策の拡充を強く要望している。

⑤ 施策成果指標（基本目標・基本施策・施策意図から設定）

	施策に対する成果指標名		単位	過年度実績 H19	過年度実績 H20	評価年度 H21	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
成果指標	通院医療費支給率	目標	%	100.0	100.0	100.0	精神疾病患者通院医療費受給実人数/対象実人数	H22	100.0
		実績	%	86.7	92.3	91.3		H23	100.0
		達成率	%	86.7	92.3	91.3		H28	100.0
		ベンチマーク						―	―
参考指標①	地域交流サロン利用人数（延べ人数）	目標	人	900	1000	1000	延べ利用人数/目標利用者数	H22	1,000
		実績	人	796	815	867		H23	1,000
		達成率	%	88.4	81.5	86.7		H28	1,000
		ベンチマーク						―	―
参考指標②		目標						H22	
		実績						H23	
		達成率	%					H28	
		ベンチマーク						―	―
参考指標③		目標						H22	
		実績						H23	
		達成率	%					H28	
		ベンチマーク						―	―

⑥ 施策構成事務事業の評価

所　属　長　評　価

	施策を構成する事務事業	事務事業評価結果 A～E（高～低）	細事業	事業分類	事業費等（単位：千円，人） 平成19年度 直接事業費	平19 人件費	平19 人工数	平成20年度 直接事業費	平20 人件費	平20 人工数	平成21年度 直接事業費	平21 人件費	平21 人工数	施策への貢献度 ☆☆☆☆☆～☆	経費の性質
1	精神疾病患者通院医療費給付事業		精神疾病患者通院医療費給付事業	単 市	2,900	1,266	0.23								H19終了
2	共同作業所助成事業		共同作業所助成事業	単 市	300	2,979	0.42								H19終了
			地域交流サロン運営事業	単 市	885	2,492	0.39								H19終了
3	精神保健事業	B	精神保健事業	単 市				1,227	4,967	0.74	1,269	5,510	0.86	☆☆☆☆	その他
			精神疾病患者通院医療費給付事業	単 市				3,331	858	0.20	4,027	1,781	0.29	☆☆☆☆	その他

この施策に費やした資源（単位：千円，人）	平19 人件費	平19 人工数	平20 直接事業費	平20 人件費	平20 人工数	平21 直接事業費	平21 人件費	平21 人工数
	4,085	6,737	1.04	4,558	5,825	0.94	5,296	7,291	1.15

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
保健課　保険医療係	心の健康相談	精神科医師による相談

⑧ 施策の評価

項目	評価	5：非常に高い　4：高い　3：どちらともいえない　2：低い　1：非常に低い 判　断　理　由　（なぜ、そのランクと評価したのか）
1 ＜成果指標の妥当性＞ 施策の目的・成果を表現しているか？	3	本施策に関する指標としては、なかなか妥当なものが見当たらないが、少しでも多くの対象者に通院医療費を支給することを目標に、指標を設定している。
2 ＜事業構成の適当性＞ 手段は最適か？	4	継続的治療環境と社会復帰の機会提供の両面から精神障害者支援を実施している。
3 ＜施策の有効性＞ 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは？	4	精神障害者のいる国保世帯は低所得の世帯が多いが、通院医療費の給付により治療を継続できている。
本年度（H22年度）取組内容 （課題解決状況）		地域交流サロンについて、利用者の自立に向けた活動を支援するとともに関係機関との連携などによりサロン活動をPRし、周知する。
翌年度（H23年度）取組目標		地域交流サロンについて、利用者の自立に向けた活動を支援するとともに関係機関との連携などによりサロン活動をPRし、周知する。
二次評価者コメント 役職　保健福祉部長 氏名　井上　純子		保健師の訪問、相談支援活動を核に関係機関と連携をとりながら、精神障害者が地域で生活できるよう支援する。

基本施策への貢献度
4 やや高い